

モナミホールに代わる複合施設の検討について

◆問合せ先 市役所管財課 ☎44-3338

平成31年4月に休館し、令和4年9月に解体工事が完了した香芝市モナミホールについては、解体した令和4年9月以前に香芝市が策定した香芝市個別施設設計画の中に具体的な将来計画が記載されていないことが原因で、今後、複合施設などを建設する際、本来受けられたはずの国からの財政支援である交付税措置の対象として認められなくなる可能性があることを、令和6年広報かしば11月号でお知らせしました。しかし、その後、国や奈良県などの関係機関と協議を重ねた結果、交付税措置対象として認められることになりました。

今後は、複合施設建設に向けた具体的な検討を進めていきます。

国からの財政支援の獲得に向けた活動

令和6年10月、交付税措置のある地方債の活用方法について、三橋市長や財政課の職員らが総務省を訪問し、地方債の活用について直接、協議を行いました。総務省からは、香芝市公共施設等総合管理計画の位置付けや他の関連計画との関係について体系的に整理し、奈良県と協議を行うよう助言を受けました。

この助言を受けて、令和6年11月に奈良県に対し、要望書を提出するとともに、香芝市公共施設等総合管理計画及び公共施設再編計画の内容について説明しました。また、複合化及び多機能化を検討し、今後のあり方を見直す方針であることや財政負担軽減の必要性を説明してきました。

こうした交渉や協議の結果、香芝市が整備を予定している複合施設に関して発行する地方債が、交付税措置の対象として認められ、市民の皆さまの将来にわたる負担を大きく軽減することができる見通しとなりました。

施設の検討

施設の検討を進めるにあたり、より良い仕様を検討するため、香川県の丸亀市市民交流活動センター「マルタス」や香芝市内の智辯学園奈良カレッジ創立20周年記念図書館を三橋市長と幹部職員で視察しました。

これらの視察結果なども踏まえ、現時点では音楽ホール、図書館、博物館、貸室、学習スペースなどの機能を備えることを検討しています。香芝市複合施設整備基本構想の策定を進めるとともに、速やかな基本計画の策定、基本設計の着手を目指しているところです。

視察画像（丸亀市「マルタス」）



視察画像（智辯学園奈良カレッジ）

